

TSU NA GA RU

一人の子どもや若者も取り残さない社会をつくる
さいたまユースマガジン

11 / 007
2023

- つながる -



食欲の秋

特集

さいたまユースの食欲の秋
東大宮商工会とのつながり

NPO法人さいたまユースサポートネット
saitamayouth

令和5年7月発行

発行日:4月・7月・10月・1月の1日 / 発行者:さいたまユース広報 / 発行所:さいたまユースサポートネット(さいたま市見沼区堀崎町12-39)

こども基本法スタートの 今、めざすことは

虐待相談
件数 **20**万人

いじめ認知
件数 **68**万件



9人に1人が相対的貧困状態

家庭にも学校にも寄る辺がなく、それに代わる居場所のない子どもや若者があちこちに見られます。こんな時代のなかで、さいたまユースサポートネットは、小さい居場所からスタートし、今では学習支援、居場所支援、就労支援を柱に、こどもや若者のニーズをキャッチして、つぎつぎと活動を広げています。さいたま市見沼区堀崎町に新拠点を定めてからは、団体が掲げる、地域の課題を包み込む「コモンズ」の具体像が見えるようになってきました。このプロジェクトが全国のモデルとなって広がっていくことを大いに期待します。

こどもの権利

- 子ども若者が自身の権利を知ること
- 政策や実践の中で彼らの最善の利益が尊重されること
- 彼らの意見表明や参画の権利が着実に実現していくこと



子どもの貧困、虐待、いじめ、不登校、自殺などの状況は、この時代が子どもにとって危機の時代であることを示しています。児童相談所の虐待相談件数は20万人を超え、20年間で10倍以上の増加。いじめ認知件数は68万件、前年度より11%近く増えています。小中高生の自死数は500人を超え、同じく不登校生は約30万人で前年より22%増加。9人に1人が相対的貧困状態（多少改善）。自分で国や社会を変えられると思う子どもはわずか18%で、国際的にみても最低位にあります。

地域の課題を包み込む コモンズ

こどもの危機といわれる状況を背景にして、ついに今年、わが国でもこどもの権利を定めたこども基本法が施行され、こども政策・若者政策の基底に「こどもの権利」が明確に位置づけられるようになりました。子ども若者が自身の権利を知ること、政策や実践の中で彼らの最善の利益が尊重されること、彼らの意見表明や参画の権利が着実に実現していくことがめざす方向となります。こども基本法が絵に描いた餅で終わらないよう、子どもや若者の声を聴き、声なき声にも寄り添い、対話を重ねながら改革に取り組んでいかなければなりません。さいたまユースサポートネットがめざす「コモンズ」は、こどもの権利が具現化する場であることを意識して発展してほしいと思います。

Profile

放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授。社会学博士。専門は、生活保障論、若者問題、社会的孤立問題など。社会保障審議会委員、中央教育審議会委員、こども政策の推進に係る有識者会議構成員、子どもの貧困対策に関する検討会座長等を歴任。主な著書は、『若者が無縁化する』『アンダークラス化する若者たち』『若者の権利と若者政策』など



宮本みち子氏
放送大学/千葉大学名誉教授

帰ってきた
リアル開催!

今回の連続講座は全て
リアル開催のみとなります。

連続講座2023

子どもの貧困から15年、 こども家庭庁に求めるもの

好評
開催中



全10回開催



青砥 恭

さいたまユースサポートネット

子どもの貧困が日本社会で語られるようになって15年。

ユースサポートネットは本年10月後半から12月後半までの2か月間にわたり「子どもの貧困から15年、こども家庭庁に求めるもの」というテーマで、子どもや若者に関する分野で研究活動をしておられる方々に、日本の子どもや若者の貧困の現状、日本社会の到達点と課題を語っていただく連続講座を開催しています。



第1回	 <p>こども家庭庁の意義と課題 —子ども政策と若者政策の統合に向けて 千葉大学・放送大学名誉教授 宮本みち子氏</p> <p>10月21日 (土) 15:00-17:00</p>	第6回	 <p>貧困問題と 市場化がもたらすもの 立教大学教授 木下武徳氏</p> <p>11月21日 (火) 15:00-17:00</p>
第2回	 <p>子どもの貧困と スクールソーシャルワーク スクールソーシャルワーカー 福島史子氏</p> <p>10月29日 (日) 15:00-17:00</p>	第7回	 <p>若者の困難と 「全世代型社会保障」の行方 中央大学教授 宮本太郎氏</p> <p>12月9日 (土) 15:00-17:00</p>
第3回	 <p>「子どもの貧困」が照らし出す 学校教育の貧困 法政大学教授 児美川孝一郎氏</p> <p>11月6日 (月) 15:00-17:00</p>	第8回	 <p>児童心理治療施設から見た 「子どもを取り巻く社会の変化」 ～「失われた20年」とその再生 こどものこころのケアハウス嵐山学園施設長 早川洋氏</p> <p>12月12日 (火) 15:00-17:00</p>
第4回	 <p>貧困解消のために 研究ができること 東京都立大学教授 阿部彩氏</p> <p>11月12日 (日) 15:00-17:00</p>	第9回	 <p>外国につながるのがある 子ども・若者をめぐる貧困と孤立 —学校と地域がつながる教育実践の可能性 埼玉大学准教授 磯田三津子氏</p> <p>12月14日 (木) 15:00-17:00</p>
第5回	 <p>ひとり親家庭と社会的支援 しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長 赤石千衣子氏</p> <p>11月20日 (月) 15:00-17:00</p>	第10回	 <p>学習支援とケア 立命館大学教授 柏木智子氏</p> <p>12月18日 (月) 13:30-15:30</p>

さいたまユースの

食欲の秋

さいたまユースの各事業では、飲食を伴うイベントや日常的な食事の支援を行なっています。今回は「食欲の秋」に注目！

子ども食堂、
Commons Cafe、
あそぼっくすみぬま、
あそぼっくすほりさき、
の
おいしいメニューを
ピックアップ！



Commons Cafeの
職員用ランチ！

子ども食堂の様子！



あなたの秋は

どんな秋？

食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋…

こどもたちの好きな
メニューは何かな？



@Commons Cafe 大人気の定番メニュー♪



鮭のムニエルもつくりました♪



@上尾ルーム

おいしいごはんを
用意して待ってるよ～
安心して、あったかいごはんを
食べることはすごく大事なことです。
みんなが好きなごはんは
なんだろう？

みんなだいすきカレー♪



協働

堀崎プロジェクト 地域で語ろう 子ども若者のこと

子どもや若者をまんなかに、つながる地域づくりを実践しているさいたまユースサポートネットの「堀崎プロジェクト」。その活動を地域の方々と共有する 2023 年度の運営協議会が8月、堀崎本部で開催されました。

2021年から始まった「堀崎プロジェクト」の目的は、さまざまな困難を抱えながら地域で生きる人々を、その地域の人々が応援する、支え合いのシステムを構築していくこと。ユースサポートネットではそれを「コモンズ」と呼んでいます。

堀崎プロジェクトの推進役を担うのが、今回の運営協議会です。当日は地元自治会、社会福祉協議会、民生・児童委員、市民活動グループ、区役所や教育委員会などから代表者・担当者の方々が一堂に会し、地域の子どもの若者をめぐる課題の洗い出しや、支援の仕組みづくり、今後の活動に向けたご意見やアドバイスを頂きました。

顔の見える社会奉仕を

食料支援や職場・就労体験を通してユースと連携しています。社会奉仕団体であるロータリークラブが目指すのは「顔の見える」支援です。企業のネットワークを活用して深く地域に関わり、一人でも多くの子どもたちの笑顔を増やす活動をするために「こども基金」も設立しました。
(浦和北ロータリークラブ 古澤建治さん・白岩智さん)

多文化多様性を大切に

ユースと協力し外国籍の子への日本語学習や多文化共生イベントを展開しています。予防的支援の観点から、子どもが困ってから訪ねてくる前に、いつでもふらりと立ち寄れる場がもっと必要です。
(あそび舎「てんきりん」代表 芳賀洋子さん)

地域が誇りに思える場

さいたまユースサポートネットは地域にとって誇りに思える場所です。区役所も区のイベントなどを通して市民への情報提供などを積極的にに行い、協力していきます。
(さいたま市見沼区長 柳田正明さん)

若者たちの協力心強い

ユースの堀崎拠点の開設以来、利用者の若者たちが自治会館の清掃活動やお祭りなどの自治会活動に協力してくれていて心強い。就労体験など今度も協力しながら進めていきたいです。
(見沼区堀崎町自治会長 山田和幸さん)

SSWと地域の協働を

支援者同士が情報共有できる場、スクールソーシャルワーカー（SSW）が地域の方々と協働できる体制を教育相談室としてもつくりたいと思います。
(さいたま市教育委員会 堀崎教育相談室 岡本亮子さん)

長い目で見守ろう

不登校の子らは長い目で見守っていく必要があります。これからの地域づくりは子どもの「居場所」を主力にしていきたいと思います。そのためには地域や企業が今まで以上に協力しなければ！
(大川野美子さん)

福祉、教育、医療の連携

児童精神科医療に20年携わっています。子ども時代の心理的負担をいかに丁寧に手当していくかが、おとなへの成長過程においてとても大切です。福祉や教育と医療分野との連携の部分でお役に立ちたいと思います。
(かわかみ診療クリニック 川上保之医師)

地域のサードプレイス

児童の困りごとは見えにくいのです。だからこそ民生児童委員、スクールソーシャルワーカー、ユースがもっと連携していきたい。学校の空き教室も「サードプレイス」になったらいいですね。
(さいたま市民生委員児童委員協議会 大砂土東地区会長 榎本一男さん)





地域とつながる、あなたとつながる。

東大宮商工会のご紹介

私たち東大宮商工会は、JP宇都宮線東大宮駅西口を中心とした商店・企業で構成されて、現在の会員数は46企業となっております。私たちは商店・企業の立場から東大宮のまちを安心・安全な街づくりをおこなっています。

主な取り組みとして、暗い夜道をなくす「街路灯事業」。地域の安全・犯罪の抑止を目的とした「防犯カメラ設置事業」。東大宮駅に帰ってくる人が“ホッ”とすることができる「駅前イルミネーション事業」。地域の子供たちが緊急時に駆け込むことができるように子ども110番の店をチェックポイントとした「謎解き街歩き探検ツアー」などを行っております。



また、夏には東大宮サマーフェスティバルの共催、年末には福引大売り出しなど多くのイベントを行っております。

地域密着の商人だからできる人流のハブ機能となり、地域の絆を大切に、子供から大人まで安心・安全に住み暮らすことのできる『心豊かな街・東大宮』を目指しこれからも活動してまいります。

NPO法人さいたまユースサポートネットの青砥代表をはじめとする職員の皆様とは、イベント開催時の子供たちの活躍の場の提供など、多く協力体制をとらせていただいております。団体が今まで行ってきた活動・チャレンジが子供たちにとって多くの経験となり、新たな発見や気づきの中で、次の一步を踏み出すきっかけづくりにつながっていると思います。

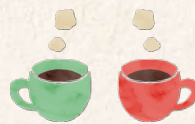
これからも、地域全体で子供たちを支える風土が根付く街「東大宮」を目指し、手を携えていければと思います。



東大宮商工会 会長 高際 義久

《 応援プログラム 》

あなたのおかげで、
できることがたくさんあります。



たとえコーヒー 1日 1杯分のご寄付でも子どもや若者たちを救えます。

月1,000円

食事を児童3人に1日提供できます。児童に勉強を教えることができます。

月3,000円

食事を児童3人に3日間提供できます。子ども1人に体操着・上ばきなどを提供できます。

月5,000円

食事を児童3人に5日間提供できます。絵具、書道セットなどを提供できます。

貧困、いじめ、不登校、引きこもり、障害、高校中退……生きづらさを抱えた子どもや若者たちがいます。その困難が、「社会の中で見えづらくなっている」そのこと自体が私たちの課題です。

お金だけではなく、物品のご提供でも
子ども・若者支援のチカラとなります。

子ども・若者のために
寄付をする



11月20日は「世界子どもの日」



NPO法人さいたまユースサポートネット
<https://saitamayouthnet.org/>